

平成 23 年度

事業所名 : グループホーム ひまわり畑

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0392700019		
法人名	医療法人社団晃和会		
事業所名	グループホーム ひまわり畑		
所在地	岩手県一関市藤沢町徳田字馬場10番地2		
自己評価作成日	平成 23 年 12 月 28 日	評価結果市町村受理日	平成 24 年 3 月 22 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www2.iwate-silverz.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0392700019&SCD=320>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成24年1月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

田・畑・山などの自然環境に恵まれた場所にあり、四季折々の草花を身近に感じ、季節感あふれ、ゆったりと過ごして頂いております。また、地域の一人として近隣や地元の方々との交流も盛んであり、様々な行事に参加したりと交流を深めております。田植えや稲刈り・畑仕事など、なじみのあるものへの関わりを大切に考え、心身共に豊かな生活を送れるよう取り組んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

この事業所は、医療法人晃和会の運営する事業所の一つであり、昨年の3月11日東日本大震災の日に開設された。里山といわれる豊かな自然環境に恵まれた地域の中、「地域とともに、ゆったり、楽しく、自由に、あたたかい毎日の暮らし」を支援するという、正に地域に密着した理念を皆で考え掲げて、全職員が一丸となって、利用者支援に当たっている。合わせて同運営法人の医療面での支援や連携の下、利用者家族そして職員、ひいては地域の暮らしの安全安心にもつながっている。利用者は、持っている能力を最大限に生かしながら、職員の優しい見守りと声かけを受け、安心と尊厳のある暮らしをしている。次年度は、ホームへの誘導路にひまわりを植え、名実ともに「ひまわり畑」を目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

[評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

事業所名 : グループホーム ひまわり畑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内の目に付くところに掲示するなどして、意識付けを図りながら、実践に取り組んでいる。	開設の際、職員皆で話し合い、この地域・ホームならではの理念を作りあげている。開設間もないこともあり、現在は掲示によつての意識喚起に止まっているが、今後は随時、理念について職員意識を確認し合いたいとしている。	理念について、職員の目線を合わせ、方向性を確認(日々のケアの振り返り、ケアプラン作成など)するための話し合いなどを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への積極的な参加、ゴミ拾い等を自主的に参加し、日常的に交流している。	開設前の説明会などを小まめに実施したこともあり、地域の方からは親しみや理解が深まっている。普段の挨拶、野菜のお裾分け、犬を連れての立ち寄り、地域健康教室への参加もある。今後は、地域の子供との交流を実現したいとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して、地域の方々にも理解していただけるよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域代表や行政からの参加を頂き、外部からの出た意見を会議で話し合い介護現場に活かしている。	ホームの生活から運営等多方面の意見交換・協議が行なわれている。「玄関への施錠について」、「避難訓練(夜間想定、段差スロープ)」、「非常通報装置の作動確認」等について、熱心な議論がなされ、ホーム運営のこれからの力になっている。	委員からは有意義な意見や要望がでており地域住民を巻き込んだ避難訓練の実施など、地域が助け合う拠点ともなるよう今後も活発な活動を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当との連携を常にとりながら、いつでも話せるような関係づくりをしている。介護相談員の方々の来設もあり、相談に応じて頂くなどの協力を得ている。	推進会議に市担当者の参加が毎回あり、情報交換が行なわれている。役場が近いということもあり、いつでも気軽に話せるような関係となっている。特に大震災の際には、被災状況確認等の連絡を頻回に行なっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全体で身体拘束ゼロに努め、徘徊や離脱行為が頻繁な利用者様に対しては、見守り強化し、施錠しない施設作りに努めている。	排泄や入浴のマニュアルを確認する中で、意識喚起を図るほか、日々のケアの中で気づいた点は、申し送り等で共有しあっている。帰宅願望の利用者については、見守りや声がけ、より添いを心がけている。夜間を除いて、玄関施錠はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や勉強会に積極的に職員全体で取り組み、管理者・職員ともに、状況把握に努め、業務に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料を用いて学ぶ機会を持ち、スムーズに支援できるよう取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約・改訂の際には、本人及び御家族様に対し十分な説明を行い、納得・理解していただくよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	居室担当者が、意見等を受け入れる窓口となり、ミーティングを通じて周知を図り、ケアに反映できるよう努力している。	運営に関する意見等は、出されていないものの、継続的に、利用者家族からの意見を聞く機会を設けたいとしている。経費の口座振り込みについて、意見が出されていることから、現在、法人を含めて、対応を検討中である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なミーティングを開催し、職員が意見を出しやすい雰囲気環境づくりに努め取り組んでいる。	毎月の定例会議や毎日の申し送りで、思いや意見を出し合っている。入浴脱衣室・トイレの手すり設置の意見に速やかに対応し設置した。調理担当職員の配置については、法人本部とも協議を進めているが、今後の課題となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	アンケートや面談にて、各職員の就業状況・要望をこまめに聞き取りし、把握・改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修への参加を設け、資格取得や技能向上への講習会等は、積極的に受けられるよう配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や、施設交流会などを通じ交流を図り、意見交換や相談を行い、サービス向上に向けたネットワークづくりを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	一人ひとりの不安や要望を傾聴し、安心して生活を送っていただけるよう、信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	安心感を持っていただけるよう、丁寧に傾聴し、話しやすい雰囲気・関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを把握し、何を今必要としているかを話し合い、利用者様と御家族様が求めるサービスにつながるよう努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活において、掃除やレクなどを行う際に、利用者様一人ひとりの能力を活かし、職員とともに、出来ない利用者様を先導するなど、対等の立場にて取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様との連絡を密にし、御家族様と共に過ごせる機会を設け、共に支え合いながら、良い関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族様や地域の方々との協力を得て、外出や外泊等の支援を行っている。会話の中で繰り返される地名や人名についての意識づけや回想なども心掛けている。	馴染みの理美容院には、それぞれに出かけて楽しい時間を過ごすほか、友人知人や近所の方の訪問も多い。利用者の部屋に、姉妹や他の利用者が集って、和やかに語らっている光景が何とも印象的である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性や状態を考慮しながら、利用者同士の繋がりを大切にし、随時席替えを行うなど、お互い話しやすい環境づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話や面会にて状態をお聞きし、相談うあ支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話から本人の希望・意向を聞き取り、ケアカンファレンスにて周知に努めている。御家族様の協力を得る場合もある。	入居時の資料に加えて、日々の寄り添いの中から得られた情報を小まめに把握・記録・共有しながら、その思いに添うように対応している。日課の無理強いはせず、のんびりと可能な限り、本人本位での生活を見守っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケースデータ・判定会議資料を参照し、御家族様やご本人様からも情報の提供を受けながら把握に努め、日常のケアに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りノート・生活記録にて現状の把握に努め、状態の変化に直ぐに対応できるよう心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスにて話し合い、本人様や御家族様の意向に沿ったケアに繋げるよう、随時見直しを行いながら、介護計画を作成している。	居室担当のモニタリングや評価などをもとにしながら、全職員でケアカンファレンスを行い、アイデア(夜の排泄誘導についてなど)を出しあうことを心がけている。定例は6か月、新規は3ヶ月、状態変化時は随時見直し、現状に対応した計画作りに努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録・介護記録・申し送りノートなどの活用を図り、こまめに記録をとり情報の共有に努め、ケアの見直しを図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの身体機能やニーズの把握に努め、その方に合ったサービスに繋がられるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会行事等、地域資源を活かし、積極的に四季折々の収穫や交流など出来るように計画を立て支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様・御家族様の意向に沿った医療機関を受診して頂いている。受診時には、適切な情報提供を行い、医療機関とのスムーズで良好な関係づくりに努めている。	かかりつけ医は継続され、通院は職員の同行を基本としており、緊急時には家族にもお願いしている。医療行為や服薬の情報交換は、職員が常に同行することから、円滑に行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化に対する報告・記録を密に行い、事業所内看護師または、訪問看護師とすぐ相談できる体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会に行き情報交換に努めている。日頃から情報提供や相談を密に行い、良好な関係づくりに努め連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	法人内や御家族様、関係者等で検討している。	利用開始時、重要事項説明書や契約書に記載している項目を通して、その内容については説明しているが、具体的な重度化や終末期の対応については、対応が必要になった場合に本人家族等と話し合いながら進めることにしている。	重度化や終末期について、いつかは当面する課題であることから、利用者家族、職員の将来的な安心確保のため、方針や対応方針について、話し合う機会を持つ事に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習の受講をはじめ、勉強会やシュミレーション、定期的な訓練を通じて、直ぐに対応できるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練やマニュアルの熟知に努めている。地域の方々にも参加・理解して頂き、協力体制を築いている。	消防機関の立会い、近隣住民の協力を得て避難訓練を行っている。特に夜間想定(一人体制のため)の訓練を主にしている。非常通報装置が設置され、春には通報作動の訓練も予定している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重した声かけを行い、呼び方や話し方、声の大きさなどにも配慮している。思いやりを持った対応を心掛けている。	利用者を「さんづけ」で呼ぶことや、否定的な言葉は使わない、大声は出さない、遠くから呼ばないなど誇りにも配慮している。支援経過記録などの情報は、事務室に保管され、プライバシーの保護にも細心の注意を払っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の思いを傾聴し、信頼関係を築きながら、希望や思いを表しやすい雰囲気作りを心掛け、ケアカンファレンスにて職員全体で把握し、支援に努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のリズムを把握し、行動に無理強いはせず、一人ひとりのペースに合わせた生活を心掛けている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理容を利用して頂いている。行事や外出時のおしゃれにも配慮している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳や下膳、食器拭きなどを一緒に行き、会話を交えながら楽しい食事となるよう支援している。	基本的な献立は職員が作成するものの、利用者の希望やお裾分けの食材の利用などで変更する時もある。利用者は、それぞれに持っている力量を発揮できる場面で、出来るところまで参加して楽しんでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の指導の下、おやつ等もうまく活かしながら、栄養バランスや脱水予防に努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、清潔保持に心掛けている。また、歯科医の健診を受け、口腔状態の把握・疾病予防に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	生活記録表から排泄パターンを把握し、声かけを行いながら、トイレで排泄できるように支援している。	利用者の排泄パターンの把握は、自立維持支援の基本となり、日々頻回の排泄について細心の見守りで全職員が把握・記録・共有しあい、失敗や後悔のないように努めている。声掛けで殆どの利用者の、トイレ排泄が可能となっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給をこまめに行い、乳製品や食物繊維など、個々に効果的な飲食物を工夫して勧めている。散歩や体操、腹部マッサージなどを取り入れ、予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な曜日の設定はあるが、状態をみながら曜日以外でも声掛けをしたり、いつでも入浴できる旨を伝え、希望に応えている。	入浴は午前、午後、毎日と柔軟に対応し、週2回を目安に促している。拒否の利用者にも友達同士でゆったり、楽しめるよう支援している。好みの入浴剤等も利用し、職員と1対1になる時間を大事にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入所以前の生活を御家族様より確認し、個々に合った対応に心掛けている。その他、日中の生活を活発にして頂くように努め、より快適な眠りが出来るよう取り組んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬剤情報をファイルにまとめ、常にみられるようにしておくと共に、その副作用・用量の理解に努めている。誤薬がないよう複数の職員で確認を行い、症状や状態の変化に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	定期的な外出の機会を設け、施設内の生活以外での気分転換に取り組んでいる。施設内でも、生活歴・身体状態を考慮し、活動や手伝い等して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望を取り入れ外出場所を決めている。御家族様にも極力外出の機会を増やして頂きたい旨を説明している。	普段は、天気を見てホーム周辺の自然観察をしながらの散歩、近くの館が森散歩などに出かけるほか、春はつつじの(室根山)、秋は紅葉(平泉)など四季折々のドライブに心がけている。今後は家族の理解と協力を得ながら、絆を深めるための家族同伴の外出機会を設けたいとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いに関し、施設側で管理させて頂いているが、希望や外出の際など、自由に使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望に合わせ、電話や手紙のやり取りが自由にできるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の清掃や空気清浄機の設置にて、清潔な空間づくりに努めている。季節感のある壁飾りを施し、寒暖の差や光・音刺激にも配慮している。	旧保育園を改修したホームの空間は、天窓から、やさしい太陽の光が差し込む中、壁には利用者が作成した四季の作品(鬼の面)や行事写真が飾られている。椅子ソファが置かれ、広い和室もあり、個々に好きな場所が確保できるようになっている。キッチンには、安全なIHが備わっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話コーナーや玄関前、あずまや等を利用して頂いたり、好きな席へ移動して頂いたり臨機応変な対応を心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様が愛着のある家具や寝具を持ち込んで使用して頂いている。その他、本人様の意向に沿って定期的に模様替えをし、心地よく生活して頂くよう工夫している。	衣類、時計、家族写真、カレンダーが主であるが、机やタンス、テレビや冷蔵庫、仏壇、位牌など多くの馴染みのものを持ち込んでいる利用者もいる。各部屋の入り口には、桜やコスモスなどの花の絵のプレートが飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室に目印をつけたり、手すり、バリアフリー化によって、安全で自立した環境づくりに努めている。		